

環境に優しく 土壌・植物を活性化

キトサン溶液 **スーパーグリーン**

【キトサン土壌改良溶液】

スーパーグリーン 使用マニュアル

草花全般・薔薇・カーネーション

スーパーグリーン活用 基本マニュアルはお読みになりましたか？

基本マニュアルは、スーパーグリーンを使用する上で基本的な事を説明しているマニュアルです。

こちらの使用マニュアルは、草花全般・薔薇・カーネーションなどに使用するタイミングや使用量などの詳細を説明している物です。

それぞれの植物の育成過程でご活用下さい。

有限会社 関西キトサン

大阪府枚方市走谷2丁目9番7号

TEL / FAX 0120 090 947 (フリーダイヤル)

ホームページ <http://kansai-chitosan.com>

草花は野菜と違い花や葉・茎などの植物その物の姿形を
観賞して楽しめます。

<草花への効果>

1. キトサン溶液**スーパーグリーン**にはカロチノイド(アスタキサンチン)色素
が含まれていて、**花や葉や果実の色艶を鮮やかに**します。
2. 栽培する土(土壌)へ、**スーパーグリーン**を散布・灌水(薄めてまく)
することで、「放線菌」と言う、**植物にとって良い効果を発揮する
微生物が増殖(増えます)**します。

増殖した**放線菌類は病原となる菌や線虫類から植物を守ってくれます。**
この効果により植物が病原菌に感染することや障害を起こす割合が
減少します。

(↓興味のある人は読んでみて下さいね。↓)

【 放線菌類が防除している病原菌類 】

フザリウム菌群・フザリウムソラニ菌群・フザリウムロゼウム菌群
リゾクトニア菌群・リゾクトニアソラニ菌群
ピシウム菌群などの病原菌類と線虫類から植物を守っています。

3. **スーパーグリーン**の持つ効果により土壌環境や植物への
活性が起こり**生育が促進(早く)され、活力が向上し
花持ち(開花期間が長く)が良くなります。**

(注意)

スーパーグリーンは**肥料ではありませんので追肥を忘れず**に行い
植物の栽培や開花した花の観賞を楽しんで下さいね。

基本は簡単使用です。
いつもどおり、気楽な気持ちでお茶でも飲みながら読み進めて下さい。

<草花全般への使用倍率と注意点>

土には(鉢物や花壇などの土壌) = 200倍~300倍

植物には(葉面散布) = 300倍~400倍

↑草花への使用の希釈(薄める)倍率は上の表示が目安です。↑

基本的には野菜と同様で土壌(土)への使用を心掛けて下さい。

薄めの倍率で使用量も少なめ(水やり程度の量)が好結果につながります。

<薄め・少なめ使用の理由>

草花には酸性の土壌環境に弱い栽培物があります。

スーパーグリーンは製造する工程で酢酸(食酢)を使用していますので、薄めて使用するとは言え酸性の物質です。

そのため使いすぎたり使用濃度が濃すぎると栽培土壌(土)を酸性にしてしまい草花にとっての良好な土壌環境を壊してしまう可能性があります。

このことから、薄め・少なめの使用を心掛けて下さい。

<使いすぎや高濃度で起こる症状>

- 成長の抑制が起こります。(成長が止まる)
- 使いすぎや高濃度使用による異状が起こると回復が困難になる可能性があります。

前ページで酸性土壌(土)の事が出てきましたね。

酸性土壌(土)と言われても、ピンと来ない人もいますよね？

「ph(ペーハー)」という言葉聞いたことはないでしょうか？
少しだけ「ph(ペーハー)」のことに触れておきますね。

【 栽培土壌(土)の「ph(ペーハー)」とは？ 】

(興味のある人は読んでみて下さいね。)

この場合の「ph(ペーハー)」とは土壌(土)が酸性かアルカリ性を示すものです。

草花を栽培する場合に適した土壌(土)の「ph(ペーハー)」は弱酸性から中性の環境が栽培し易い土壌環境です。

(一部例外もあります。)

ですが、基本的に日本の土壌は酸性が強い(強酸性)土壌が多いです。

そのため、栽培土壌にアルカリ成分の強い石灰などを土に混ぜて中和することで強い酸性土壌の「ph(ペーハー)」を弱酸性から中性の間に調整し栽培環境を整えています。

<石灰の使用で「ph(ペーハー)」を調整する 例>

一般に良く使用されている、苦土石灰などは土に混ぜて1週間～10日程で強い酸性(強酸性)の土壌を草花を栽培し易い土壌環境(弱酸性から中性)へと「ph(ペーハー)」が調整されます。

＜石灰の使用で「phペーハー」を調整する 例の続き＞

**有機石灰(貝殻などの有機物から製造される石灰)などは
苦土石灰より効果がゆっくと出始めます。**

**したがって、苦土石灰の使用時よりも長期間土壌を寝かせないと
土壌「phペーハー」の調整が上手く出来ません。**

スーパーグリーンや石灰の使用目的を理解することで効果が高まります。
「放線菌」や「石灰」の話で少し説明が脱線してしまいました。

大切な事を伝えようとする、ツイツイ違うことまで説明してしまいます。

それでは、次のページからは草花全般の使用方法についての説明に移りたいと思います。

<草花全般への使用方法>

草花全般

1. 育成ポットやトレイで種から苗作りをする場合は種蒔き時の土沈めの水やりとして300倍位に希釈(薄めて)散布して下さい。(初回散布・灌水)
 - 抗菌・抗カビ(病気予防)
 - 発芽率向上(種から芽が出やすくなる)
 - 発芽促進(早く芽が出る)などの効果が望めます。

2. 定植時(苗を植え付ける時)に定植後の土沈めとして水やりの要領で200倍～300倍に希釈(薄めて)し土壌(土)へ散布・灌水します。(2回目散布・灌水)
 - 活着(根張りや成長)が良くなり生育が活発になります。
 - 病害・障害の予防効果

- 3-1 短期に育成・栽培する物には2～3週間周期に1回の間隔で200倍～300倍の希釈(薄めた)液を土壌散布・灌水します。(短期育成物への3回目以降の使用)

- 3-2 長期に育成・栽培する物には花芽の出る頃から、月に1回の間隔で200倍～300倍の希釈(薄めた)液を土壌散布・灌水します。(長期育成物への3回目以降の使用)
 - 栽培物の活力の持続効果
 - 病害・障害の予防効果

<球根への使用>

球根には植え付けたままで、冬越しする物や季節に植える物があります。

冬越しする物は冬場の使用(休眠中)は控えて冬越しをします。

春物を植える時期が来た時に、春物に初期使用するのと同様の使用をします。

<使用方法・倍率>

1. 冬越し物・春に植えたものとも同様に200倍液を水やりの要領で散布・灌水して下さい。

春に早めの使用をすることで、土壌の微生物が増殖し土壌環境が良くなります。

球根自体にも病気・障害などの予防効果と活力が向上します。

2. 発芽後の使用は2~3週間の一定間隔で200倍液を水やりの要領で、散布・灌水して下さい

(注意) 発芽した新芽や開花した花に散布しないで下さい。

新芽の成長が悪くなったり、花持ちが悪くなったりしますので新芽や花には直接かからないように使用して下さい。

土には(鉢物や花壇などの土壌) = 200倍~300倍

植物には(葉面散布) = 300倍~400倍

↑ 草花への使用の希釈(薄める)倍率は上の表示が目安です。↑

<挿し木への使用>

1. 菊などを挿し木で栽培する場合、挿し木をしてから栽培土壤に土沈めとして水やりの要領で散布・灌水します。
(初回の使用)

初期使用倍率は200倍～300倍に希釈(薄めて)して使用して下さい。

2. しっかりと活着(根が張る)するまでは20日周期で200倍～300倍液を土壤散布・灌水して下さい。(2回目以降の使用)
3. 挿し木が活着後は草花全般の使用法と同様です。
(活着後の使用は5ページの「3-1」「3-2」を参考にして下さい。)

定期使用を心掛けて、使用倍率を守って栽培して下さい。

↓挿し木に使用する時の希釈(薄める)倍率・目安↓

活着(根が張る)するまで土壤に200倍～300倍

その後は草花同様に定期散布

(注意)

他の物との混合は止めて下さい混合使用は自己責任でお願いします。
当社は混合使用についての責任は一切持ちませんのでご理解下さい。

<朝顔(つる物)などへの使用方法>

1. 種を蒔く時やつるを定植する時に水やりの要領で土沈めとしてスーパーグリーンを土壌へ散布・灌水します。(初回使用)
(200倍～300倍液を土壌散布・灌水)

- 抗菌・抗カビ・病害予防・障害予防効果
- 発芽促進(芽が早く出る)
- 活着や成長の促進

などの効果を目的とした使用です。

2. 育成期は土壌散布・灌水を2～3週間に一度の間隔で定期使用して下さい。(2回目以降の使用)
(200倍～300倍液を土壌散布・灌水)
3. ある程度大きく育ち葉が茂るようになってきたら、土壌散布と葉面散布を交互に定期散布・灌水すると長期間栽培することも可能となります。
(3回目以降の使用)

↓草花への使用の希釈(薄める)倍率は上の表示が目安です。↓

土には(鉢物や花壇などの土壌) = 200倍～300倍

植物には(葉面散布) = 300倍～400倍

(土壌散布の定期使用だけでも問題はありません。)

一例ですが関西地方のお客様で7月下旬から咲き始めた朝顔が11月20日頃まで元気に花を咲かせていて、蕾もつけていると言う報告もあります。

<草花全般への使用ポイント>

1. 連作障害の出る土壌には、定植する10日位前に100倍に希釈(薄めた)した**スーパーグリーン**を水やりの要領で土中に浸透(しみ込ませる)するように、多めの散布・灌水をして下さい。
2. 長期栽培物での休眠時期(冬越しなど)は、春になり植物の活動が活発になる頃に合わせ**スーパーグリーン**を一定間隔で使用します。(休眠状態での使用は、あまりオススメ出来ません。)
3. 病害・障害が出た場合は、発病ヶ所を重点的に十分な量を使用して下さい。(症状の固定・改善を目的とします。)
4. 生育期は薄め・少量の使用・最盛期は薄め・量を多めの使用をして下さい。
5. 短期栽培物・長期栽培物とも、それぞれに応じた初期使用と定期使用をして下さい。

スーパーグリーンは**肥料ではありませんので追肥を忘れず**に行い植物の栽培や開花した花の観賞を楽しんで下さいね。

(注意)

他の物との混合は止めて下さい混合使用は自己責任でお願いします。
当社は混合使用についての責任は一切持ちませんのでご理解下さい。

「スーパーグリーン・活用基本マニュアル」の方に混合使用についての説明がありますので参考にして下さい。

<使用しない方がよい草花>

- 蘭(らん)の種類
- 苔類
- シダ科の植物
- 高山植物
- 桔梗など

上記の種類植物には実験・研究・栽培の結果

あまり良い効果や結果が望めませんでした。

キトサン溶液を使用して栽培するには、不向きな植物です。

これらの植物に使用すると失敗の原因となりますので
使用しないで下さい。

これらの植物への使用は自己責任でお願いします。

**当社はこれらの植物への使用結果の責任は
一切負えませんのでご了承下さい。**

「お疲れ様でした。」

「使用マニュアル・草花全般」を読んでいただいて有難うございました。
元気で鮮やかな草花の育成・栽培にお役に立てれば嬉しい限りです。

次のページからは、薔薇(ばら)・カーネーションへの使用方法です。

薔薇(ばら)・カーネーション

<使用効果>

1. キトサン溶液**スーパーグリーン**にはカロチノイド(アスタキサンチン)色素が含まれていて、**使用することで花や葉の色艶が深みを感じる鮮やかな物へと変化し健康で良好な状態を保つ事が出来るようになります。**
2. 薔薇の栽培で起こる**病害・障害が出にくい栽培土壤に改善**できます。

病気は土から起こる割合が多いので、

土壤中に生息している放線菌類などを始めとする

優良菌類(植物の栽培にとっての良い効果を発揮する菌類)を

増殖させることで、病害菌類(フザリウム菌群他)や

線虫類などによって起こる病害や障害から植物や栽培土壤を

守ってくれます。

3. カーネーション栽培で起こりやすい、**連作障害(同じ土壤で複数回栽培すること)もスーパーグリーンの使用で予防や改善が可能**となります。

薔薇もカーネーションも良い土壤環境で鮮やかで元気に育ててあげて下さい。

<使用方法>

1. 若葉の出る初期の頃に土壌散布・灌水の水やりの要領でして下さい。

スーパーグリーン200倍希釈(薄める)液を一株あたりに
1~2ℓ根元と周辺に与えてあげて下さい。

土壌・植物双方の活力の向上と病害・障害への予防効果が目的です。

2. 萌え芽から開花して鑑賞(観賞)中を通じて1ヶ月に1回周期の使用が
良好な効果が出るようです。

一定周期での定期使用をすることで効果の持続を目的とします。

使用方法・使用量は上記の「1」と同様の使用方法です。

観賞を営業目的としている場合は発芽1ヶ月前に
土壌散布・灌水をする事で、植物細胞・栽培土壌を活性化し
成長の促進と病害・障害への予防効果を目的とした使用をして下さい。

その後の使用は上記の「1」「2」を参考にして下さい。

↓草花への使用の希釈(薄める)倍率は上の表示が目安です。↓

土には(鉢物や花壇などの土壌) = 200倍~300倍

植物には(葉面散布) = 300倍~400倍

適期・適量の使用で鮮やかで美しい薔薇やカーネーションを
栽培して下さい。

<種子・挿し木への使用>

【種子】

- 他の植物でも応用出来ますが、**種子をスーパーグリーンに浸してから種蒔**することで、**発芽率が向上**します。
(使用倍率は100倍～200倍液)
- **種蒔き時に散布**することで**病害・障害の予防効果**が望めます。
(**土壌散布・灌水は200倍～300倍液**)

【挿し木】

1. **挿し木をする時は水やりの要領で土沈めとして土壌散布・灌水**します。
(**200倍液を水やり程度**)
2. **次の使用は2週間位してから、再度土壌散布・灌水**します。
(**初回と同様に200倍液を土壌散布・灌水**)

種から育った物は初回の間引きをする時に「2」と同様に散布します。

根張りが良く病害・障害の発生も軽減でき元気に育つ事でしょう。

<病害・障害への使用について>

【カーネーション・連作障害対策への使用】

栽培土壌でカーネーションを連作する場合は連作栽培前に土壌散布・灌水を広範囲に施すことで連作障害が出難い土壌環境となります。

使用方法は少し濃い希釈(薄める)液を使用して下さい。

スーパーグリーンを多めの水量で100倍～200倍の使用をします。土中深くまで浸透させることで障害の予防を目的とします。

【カーネーション・炭素病対策への使用】

炭素病が出た場合は発病ヶ所と周辺に1株当たり150倍～200倍液を3ℓ～5ℓを土壌散布・灌水して下さい。

水量が多いのは土中深くまで浸透させるのが目的です。

症状の改善や固定と感染の予防を目的とします。

カーネーションの

連作障害には100倍～200倍を土壌散布

炭素病には1株当たり150倍～200倍

水量を多めで土中に浸透

定期使用で病害・障害の出にくい栽培土壌へ改善して下さい。

<病害・障害への使用についての続き>

【薔薇の病害・障害対策への使用】

11ページでも触れましたが病害・障害は土壌から起こる割合が多いので、栽培土壌を良好な環境にすることで病害・障害は出難くなります。

スーパーグリーンを土壌散布・灌水することで「放線菌類」が増殖します。

増殖した「放線菌類」が土壌にもたらず効果は病原菌の防除・抑制です。

放線菌類が防除している病原菌類

フザリウム菌群・フザリウムソラニ菌群・フザリウムロゼウム菌群
リゾクトニア菌群・リゾクトニアソラニ菌群
ピシウム菌群などの病原菌類と線虫類から植物を守っています。

上記のような病原菌類を放線菌が防除・抑制し
キトサンの本来持っている抗菌・抗カビ効果で
病害・障害が起こる事を軽減します。

**病害・障害が発生した場合は150倍～200倍液を経過を見ながら
2～3週間周期で定期使用して下さい。**

症状の改善・固定と周囲への感染を防ぐ事が目的の使用です。

カニ殻肥料との併用で相乗効果が多く認められています。

使用マニュアル 草花全般・薔薇・カーネーションを読んでいただいて
有難うございました。

お客様の植物の栽培・育成にお役に立てたなら嬉しい限りです。